



# 県立学校体育館に冷房

大分県教委は県立学校の体育館に空調設備(冷房)の設置を進める。子どもたちの熱中症を防ぐため、夏場でも体育の授業などをしやすい屋内環境が求められているが、現状あるのは59校中1校のみ。本年度は災害時に体育館が避難所となる22校に取り付け、2025年度以降も増やしていく方針だ。

県内の公立小中高と特別支援学校では、普通教室には全て空調が設置されている。

一方、体育館は断熱性が低くて空間が広く電気代がかかることもあり、導入は進んでいない。県立であるのは病弱児対象の別府支援学校石垣原校。市町村立では、別府市の小学校14校全てと中学校4校(小中一貫を含む7校中)、大分市の金池小と大在東小の2校となっている。

中、各校は熱中症の危険が高い日は屋外での体育授業や活動を避けるといった対策を取っている。代わりとなる屋内環境の必要性は高まっている。

災害対応を兼ねた対策として県教委は本年度、38校ある避難所になる体育館のうち、22校に空調を取り付ける。新生支援(大分市玉沢)など特別支援学校を優先する。事業費は約15億円。国の緊急防災・減災事業債を活用し、県の実負担額は3割となる。

## 熱中症対策、避難所活用も対応

### 県教委 本年度は22校設置



別府支援学校石垣原校の体育館に設置している空調設備。別府市鶴見

残る県立学校についても、25年度以降、避難所として使われる体育館から順次、整備していく。

県教委教育財務課は「熱中症の危険性は年々高まっている。冷房で体育の授業などでの環境改善を図りたい」と話している。

(佐藤章史、徳光瑞稀)

〔問①〕 大分県の県立学校のうち、体育館に冷房の設置があるのは現状1校ですが、どこですか。

〔問②〕 県教委が冷房設置を進める理由は何ですか。

〔問③〕 ほかに学校設備で必要なものはありますか。また不要なものはありますか。考えよう。